

令和6年度第22回都市経営会議 令和7年（2025年）2月25日（火）開催

1 財政シミュレーションについて

【提 案】 企画経営部

【結 果】 承認

【質疑等】

- ・ 新ごみ処理施設の建設に係る総事業費が約 510 億になったのは、工事費の影響によるものか。物価高騰に対応する契約（スライド条項）になっているのは工事費の部分のみで、DBO 方式¹を採用している運営費については増える見込みはないという理解で良いか。将来的には人件費や物価高騰の関係で委託関係の費用が増えていくように思う。新ごみ処理施設の運営費も仮に増えるのであれば、しっかり説明できるようにしておいてほしい。

⇒ 運営費はスライド条項に含まれておらず、今のところ増加の見込みはない。

- ・ 物件費がやや減っているように思うが、理由は何か。

⇒ 令和 7 年度はシステム標準化による一般財源への影響が大きいため高額であるが、令和 8 年度以降は単発的なものがなくなるため、なだらかになる。

- ・ 資料の中にはないが、新病院の基本計画はいつ頃完成するのか。

⇒ 現在作成中であり、今年中の完成を目指している。基本部分と個別部分とで分けて作業しており、基本部分にあたる前半部分ができた段階でパブリック・コメントを実施したい。7 月頃になると思うが、その際には収支シミュレーションをお示ししたい考えである。

- ・ 計画上、予定している金額は増えそうか。

⇒ 現時点では 397 億で計画を作成している最中であるが、他自治体の事例を見ても、病院建設にあたって物価上昇の影響を受けている。その状況を、最終 12 月に着地点を求める計画にどこまで反映させていくかは議論していかなければならない。想像以上に物価上昇の波が来ていることは申し上げておきたい。

- ・ 令和 8 年度に 7 億、令和 9 年度に 5 億、計 12 億の収支改善を目安とし、それが令和 10 年度以降も続いていくシミュレーションになっている。12 億を見直さなければならぬ状況に変わりはなく、それぞれが必要な見直しをしていかなければならない。現在、行財政経営行動計画に関する照会を行っている。取りまとめ後の 3 月には、本部会議で改定版の行動計画をお示しし、できるだけ早く見直せるものがないかをお諮りしたい。中長期で改革が必要であるため、協力をよろしく願います。

- ・ 財政シミュレーションの 11 ページでは、令和 16 年度における収支累計額が 74 億 9,500 万とあるが、これまでの財政見通しではいくらであったか確認したい。

¹ 公共が資金調達し、設計・建設、運営を民間に委託する方式。

- ⇒ 前は112億8,000万であったところ、74億9,500万になった。
- ・ 市民福祉金代替分の基金積立金の合計30億7,000万を含めての74億9,500万となっているが、前回の資金計画で積立金に含めていたのは病院の積立と市民福祉金代替分の積立のみか。
- ⇒ それに加えて公共施設等整備保全基金への2億の積立があり、財政シミュレーションでは10ページに記載している。
- ・ 以前、100億超が不足していた際に、50数億は基金への積立分と説明していたが、74億9,500万のうち、基金への積立分はいくら入っているのか。
- ⇒ 前回の財政見通しでは、病院の積立と、公共施設等整備保全基金、都市計画税、市民福祉金代替分等の積立として計55.4億円を積立てると説明していた。今回の財政シミュレーションでは、公共施設等整備保全基金への積立は10年間の合計で18.2億のみになるため、将来への積立としては18.2億ということになる。そこに、市民福祉金代替分の10年間の合計30億7,000万を加えた約48億が基金への積立分である。

2 第2期 地域ごとのまちづくり計画 後期計画（R8～R12）策定の考え方について

【提 案】 市民交流部

【結 果】 承認

【質疑等】

- ・ 前期計画策定の際には「地域（まち）の将来像」から決めるということもあり負担も大きかったように思うが、今回は具体的な取組を決めるということで負担も少なくなるように思う。

策定の考え方（案）の資料中、最終ページのスケジュールを見ると、これまでに、まちづくり協議会の代表者交流会で意見交換を行い、その後、各まちづくり協議会への個別説明を行ったとあるが、後期計画の策定に向けては、地域からどのような意見が出ているか。というのも、計画策定そのものの負担もあるが、計画には上がっているものの、市の財政状況などの事情もあり、中々計画通りに進まないこともあると思う。その辺りも含めて地域からどのような意見が出ているのか紹介いただきたい。

- ⇒ 負担感を減らしたいというのが一番大きかった。前期計画では、かなり精緻なものが出来上がったものの、完璧すぎてやりきれなかった部分がある。現に、担い手がいないためできなかったというケースもあった。

新型コロナウイルス感染症による影響で、一時的に話し合いが止まっていたような案件については、今一度、地域に対して職員が丁寧に説明しているところであるが、コロナ禍前と状況が変わっていることもあり、他のことに注力したいというお声もある。後期計画はそうした状況も踏まえての判断になる。

地域から様々なお声がある中で、各担当次長には、厳しい財政状況も踏まえながら地域とよく話し合ってもらい、5年で確実に達成できるようなものに落とし込んでいた

だきたいと考えている。一方で、お金がないで終わってしまえば身も蓋もなく、まちづくり協議会の活動自体がボランティアであるため、地域の元気がなくなってしまう可能性もある。各担当次長には、そうならないようバランスを良く考えながら、役割を果たしていただきたいと考えている。

- ・ 地域からは様々な意見が出ていると考えている。各担当次長は所管しているまちづくり協議会からの意見は把握されていると思うが、所管外の所からの意見も把握されておく方が良いように思う。

これから後期計画を策定するにあたり、地域と市とで様々な面で情報を共有しながら進めていくのが良いように思う。その点よろしく願います。

- ・ 具体的な取組における役割分担があったと思うが、主に行政の部分が中々できていないように思う。それに対してまちづくり協議会からお声はいただいているか。

⇒ 実現したことの達成感がほしいという意見はあった。一方で、市から現在の財政状況を説明する過程で地域の理解は深まっているように思う。後期計画では5年間でできることを重視していただき、進めていければと思う。現実的に道路の問題などは難しいところもあろうかと思うが、優先度をつけながら取り組んでいることを丁寧に説明した結果、地域からは、市と一緒に取り組むことができありがたいという声もいただいている。一歩ずつ協議を進めていく中で、地域にご理解いただける状況になってきた。

- ・ あるまちづくり協議会では、メインの道路の事故対策についての話が出ており、最初の頃は対話が思うように進まなかった。しかし、道路部局にも頑張ってもらい、事故が起こりにくい塗装を施したことにより事故が減ったという事例があった。市も動いてくれているという声が地域の中でも出始めて、市民の方々からの理解も深まったように思う。市から事情を説明したら、ある程度、納得いただける関係性が構築できている。